

山口県立

総合医療センターだより

Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

特集

消化器内視鏡センター開設

やさしい検査と低侵襲な治療の提供をめざして



2022.2 Vol.47

- ① 統括副院長挨拶 ② TOPICS 手術支援ロボットを使用した人工関節置換術300例実施 ③ ④ 特集 消化器内視鏡センター開設
⑤ 看護部通信 内視鏡検査を安心して受けていただくために ⑥ 地域医療連携ニュース 地域連携バスの活用を促進しています /
院長だより ⑦ インフォメーション 令和3年度国民健康保険関係功績者厚生労働大臣表彰受賞、抗菌薬適正使用支援チーム(AST)、
広報番組放送予定、編集後記 外来診察担当医表(別紙)



統括副院長
藤井 崇史

患者ファーストの 医療を目指して

コロナ禍で「医療崩壊」が叫ばれる中、全国の病院でスタッフ不足や患者受け入れの困難化、病院の経営悪化など、安定的な医療提供が脅かされています。近い将来には、多くの病院で統廃合、または運営方針の変更が予想され、当院が高度先進病院の機能を維持し、地域のニーズに応えるにはどうすれば良いかが大きな課題です。その中で最も大切なことは高度急性期病院として信頼を受け、患者さんに選ばれる病院になることだと思っています。

高度急性期病院では早期診断と治療により、できるだけ早く病気を治す役割があり、そのためには最先端の医療を提供できる体制作りが必要です。そこで従来の内科と外科に分かれた病棟編成を改変し、臓器別にセンター化し、内科と外科が協働して

治療に当たる体制を作りました。さらに今年度は6月に超音波センターを開設し、より多くの検査を精度良くこなせる体制を作りました。また、今後のがん治療の中心となりえる放射線治療室(リニアック棟)を改修し、最新のリニアック、ラルスが開始されました。さらに12月には消化器内視鏡センターを開設し、鎮静下の胃、大腸の内視鏡治療が可能となりました。今後はがん診療の充実を図るためにPET-CT診断装置、手術支援ロボット『ダヴィンチ』等の導入も予定しています。

当院の目標は患者ファーストの理念のもと、最先端で精度の高い医療を提供し、多くの信頼を得ることです。これからも病院の改革に努力いたします。

手術支援ロボットを使用した 人工関節置換術 300例実施

2020年11月から手術支援ロボットを使用した人工関節置換術を開始し、このたび300例目の手術を実施しました。

当院が導入した手術支援ロボットは、術中に医師が操作をして動かすもので、人工関節を設置する際に傷んだ骨を削るために使われます。手術支援ロボットを使用することにより、「**難易度の高い手術の均てん化**」、「**精度の高い術前計画**」、「**ミリ単位で可能な術中調整**」、「**低侵襲化**」を実現しています。

当院では手術支援ロボットを2機導入し、ロボット支援手術を希望される患者さんには、希望通りに受けていただける体制を整えています。

これまでに人工関節置換術で培った50年の実績にロボットの安全性・正確性を加え、今後も県民の皆様の健康寿命の延伸に寄与していきたいと考えています。



手術支援ロボット

難易度の高い手術の均てん化

ロボットのガイドにより正確な骨切り量や角度が決まるので、これまで術者の経験や習熟度に依存していた人工関節の設置が、正確に行えるようになりました。

精度の高い術前計画

術前にCT検査を実施します。CTデータを基に3次元(3D)化した関節のモデルが作成されるので、人工関節を設置する位置や角度を高精度に計画できます。

人工関節センター長
椎木 栄一

副院長
医療安全推進室長
田中 浩

ミリ単位で可能な術中調整

術中は、患者さんの関節の変形(O脚やX脚など)に合わせ、適切な位置に人工関節が設置できるように術者の判断で調整をします。ロボット支援により、その調整は1ミリ、1度単位で行うことが可能です。

低侵襲化

治療計画から外れた角度や深さで骨を切除しようとする、自動的にロックがかかり動きを制御します。これにより、傷の大きさや侵襲が最小限で抑えられるため、出血が非常に少ない手術が可能になりました。

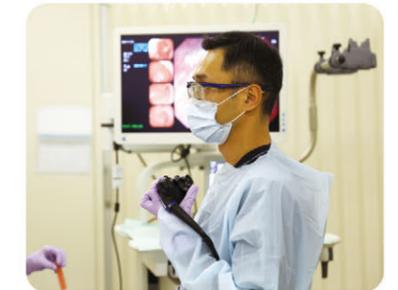
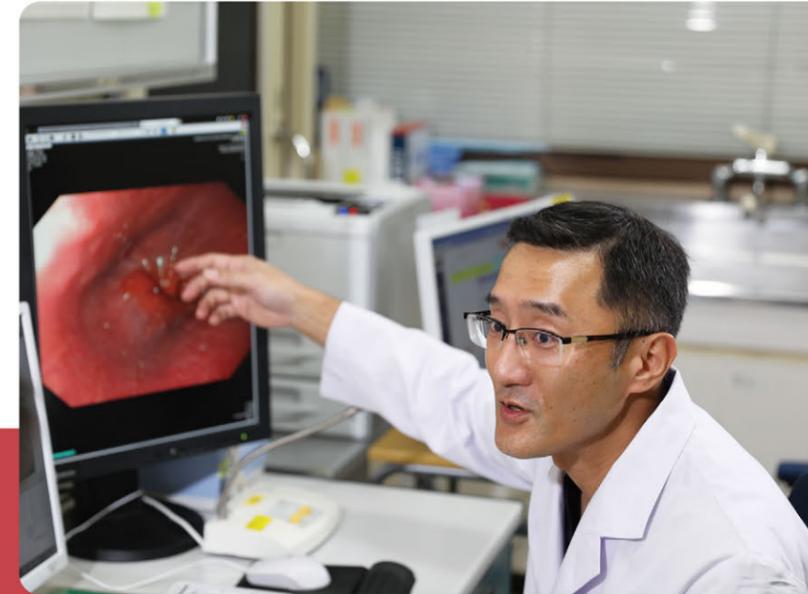


診療実績

| | 2019年 | 2020年 | 2021年 | |
|---------------------------|-------|-------|-------|-----|
| 上部消化管内視鏡検査 | 2,236 | 2,101 | 2,365 | |
| 下部消化管内視鏡検査 | 1,043 | 996 | 1,138 | |
| 内視鏡的逆行性 膵胆管造影 | 243 | 254 | 273 | |
| 小腸内視鏡検査 (カプセル+ダブルバルーン) | 42 | 50 | 50 | |
| 内視鏡的治療 | 上部 | 126 | 125 | 390 |
| | 下部 | 529 | 198 | 493 |
| | 胆膵 | 233 | 250 | 307 |

センターの開設を機に、診療実績のさらなる向上を目指します

当院では、患者さんの負担が少ない内視鏡検査と、早期の胃がん及び大腸がんに対し先進的で低侵襲な治療の提供を目指し、2021年12月から「消化器内視鏡センター」を開設しました。



消化器内視鏡センター長
岡本 健志 (おかもとたけし)

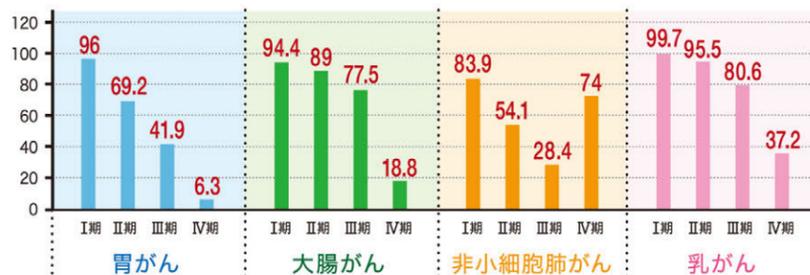
日本内科学会 総合内科専門医
日本消化器病学会 消化器病専門医・指導医
日本消化器内視鏡学会 消化器内視鏡専門医・指導医
日本ヘリコバクター学会 ピロリ菌感染症認定医

定期的な内視鏡検査の重要性

大腸がんや胃がんは、早期に発見できれば根治できるケースが多いのが特徴です。しかし、初期の段階では自覚症状がほとんどないこと、内視鏡検査に対するネガティブなイメージが強くあるため、定期的な検査を受けておられる方が多くないのが現実です。

特に胃がんの5年相対生存率は、I期とII期では大きく異なってくるため、早期にがんを発見できるように、自覚症状がなくても内視鏡検査を定期的にかけていただくことが大切です。

◆部位・病期別がん5年相対生存率(%)



国立がん研究センターがん対策情報センター【がん情報サービス がん登録・統計】(2012-13年5年生存率集計より)

私たちが目指す“やさしい内視鏡検査”とは

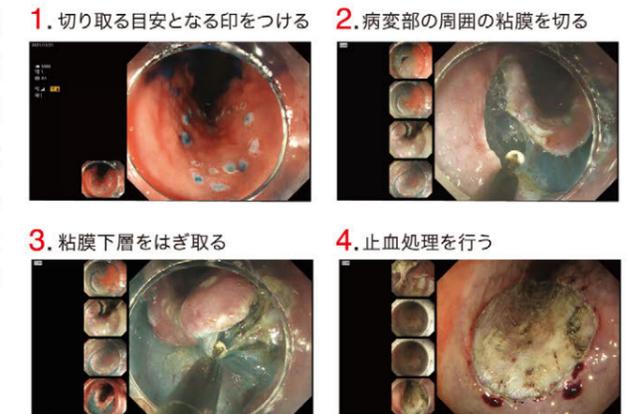
内視鏡検査のつらさの原因は、カメラが体の中を通る際に、喉や腸の壁を刺激することにより、苦しさや痛みが発生するためです。当院が導入した“やさしい内視鏡検査”とは、鎮静薬を使用することによって、苦しさや痛みを感じることなく、検査を受けていただけるものです。検査後は新たに設けたりカバリースペースでゆっくり休んでいただきます。

ニーズの高まる内視鏡治療

近年の消化器内視鏡診療技術の向上により、消化器内視鏡治療の適応範囲は広がっています。例えば、早期の胃がん治療では以前は外科手術の適応となっていた病状でも、今では内視鏡治療が可能となり、半数以上が内視鏡的切除により治療が行われています。

低侵襲な内視鏡治療

当院では、早期の胃がんや大腸がんに対する“内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)”を積極的に行っています。ESDは外科手術に比べて患者さんの負担が大幅に軽減された治療法です。がんの下の粘膜下層に生理食塩水などを注入して、がんを浮き上がらせ、がんの周りの粘膜を高周波ナイフで切開します。比較的大きながん、生理食塩水などの注入で十分に浮き上がらないがんに対しても有効で、臓器の原型を温存できるため、患者さんの食生活への影響を極力抑えることができます。



看護部
通信



検査中は、看護師が
患者さんに寄り添います。

内視鏡検査を安心して受けていただくために…

放射線科外来 看護師 梶山 陽子

2021年12月に消化器内視鏡センターが開設されました。消化器内視鏡センターでは、上部消化管、下部消化管、胆道膵臓などの消化器臓器における腫瘍に対して診断と治療を行っています。当院を受診される患者さんは、山口県内をはじめ、近県からも来院されています。検査はもちろんのこと、内視鏡下で行う手術も年間約800例行っており、近年増加傾向にあります。一般的に内視鏡は、「きつい、苦しい、怖い」などのイメージがあるのではないかと思います。私たち看護師は、検査が始まる際には、緊張しておられる患者さんに「傍にいますから大丈夫ですよ。一緒に頑張りましょう。」と声かけやタッチングを行い、

不安や苦痛の軽減に努めています。患者さんに少しでも安心して安楽に検査を受けていただけるよう、医師、看護師、臨床工学技士がチームとなり、高い技術と丁寧な対応を心がけています。現在、消化器内視鏡センターでは鎮痛、鎮静薬を使用し、より苦痛の少ない方法での検査、治療を提供しています。内視鏡検査や治療は、早期に対応することで、外科手術に比べて体への負担が少なく済みます。患者さんにとってより良い医療を提供できるように、今後も自己研鑽し、内視鏡チームのスキルアップを目指し、患者さんの心に寄り添える看護に努めてまいります。

地域医療連携
NEWS

地域連携パスの活用を
促進しています!

当院が運用する地域連携パス

- 大腿骨頸部骨折
- 心不全
- がん(乳・胃・大腸・肺)
- 脳卒中
- 虚血性心疾患

どのような治療がいつ、どこで、どのくらいの期間で、実施されるのかという不安は、多くの患者さんが入院中に抱かれることです。当院では、このような不安を解消していただけるよう、治療の計画を明確化して患者さんやご家族に説明できるようにしています。そして、当院を退院された後も地域の医療機関と綿密な連携を図り、地域で患者さんの療養を支援するための「地域連携パス」の活用を推進しています。これまで漠然としていた治療内容や期間がパスの紙面

で明確化されることのメリットは大きく、今後の治療がどのように進んでいくのかを患者さんご自身に理解していただくことによって、主体的な治療への参画が可能となります。また、地域連携パスに参加していただいている医療機関と、運用に関する研究会を定期的で開催するなど、良質な医療の提供を目指し、日々連携を図っています。病院完結型医療から地域完結型医療へ、医療機関相互のシームレスな連携を促進するツールとして活用していきますので、今後ご理解とご協力をお願いいたします。

様式1 県央部脳卒中地域連携診療計画書 (患者用) 山口県立総合医療センター 病棟 科 ID: #PATIENTID

@PATIENTNAME 様 年 月 日 本人またはご家族署名

| 経過月日 | 急性期病院 (救急医療の機能) 入院~ 2週間~転院 迄2ヶ月以内 | 回復期病院 (回復期医療の機能) 転院~2週間 2週間~1ヶ月目 2ヶ月目~退院 | 自宅・施設 | |
|------|---|---|---|--|
| 達成目標 | ・症状に变化があれば知らせることができる ・状態に応じて無理なく活動できる ・療養について理解できる | ・状態が安定し、リハビリが継続できる ・リハビリに積極的に参加できる ・退院先は転院先が選択できる | ・生活リズムを再建することができる ・リハビリに積極的に参加できる | ・日常生活動作を増やしていくことができる ・退院後の生活環境を整えることができる ・退院時の日常生活能力を維持向上できる |
| 治療 | ・医師の指示により、点滴や内服薬による治療を行います ・必要な場合は手術治療を行います ・他院のお家をお持ちの方はお申し出ください ・離家時入退室の調整を行います | ・状態に応じて薬の投与を継続します | ・必要に応じて在宅医療を行います ・必要に応じて退院先を確認します ・自宅での生活方法を指導します ・必要に応じて自宅移住の計画をします | ・薬は継続して服用します ・必要に応じて、医療機関・介護保険でリハビリを継続しましょう |
| 検査 | ・状態に応じて採血・レントゲン・CT・MRIなどの検査を行います | ・状態に応じて検査を行います | ・必要に応じて検査を行います | ・状態に応じて受診しましょう |
| リハビリ | ・発症直後のリハビリを行います ・安静体位に就いて、早期からベッド上でのリハビリを開始します ⇒座る・立つ・歩けるようになるための練習を行います ⇒コミュニケーションをとるための練習を行います | ・病状の推移をもとに評価し訓練をします ・自宅復帰を想定したリハビリを行います ・必要に応じて、退院前に自宅を訪問し状況を確認します ・自宅での生活方法を指導します ・必要に応じて自宅移住の計画をします | ・病状の推移をもとに評価し訓練をします ・自宅復帰を想定したリハビリを行います ・必要に応じて、退院前に自宅を訪問し状況を確認します ・自宅での生活方法を指導します ・必要に応じて自宅移住の計画をします | ・必要に応じて、医療機関・介護保険でリハビリを継続しましょう ・必要時、家事援助(ヘルパー)が |

病気がなったら 急性期 回復期 維持期

急性期病院 リハビリテーション病院 地域のかかりつけ医・介護保険事業所など

院長 だより

百人規模の小さな学術集会を令和3年11月13日(土)に当病院内で開催し無事に終えることができ安堵している。デルタ株ウイルスもこの期間中はなりを秘めてくれ、助かった。2年後に回り来る学術集会(全国自治体病院協議会中国・四国ブロック会議)の主催に向けて、私と共に働いてくれる頼もしい職員を乗せた鈍行の列車はピンク色の東雲を背に夜明けの停車場を離れ、令和時代の四つ目のトンネルに向かってゆっくりと走り出していく。

武藤 正彦



当院職員が

「令和3年度 国民健康保険関係功績者 厚生労働大臣表彰」を受賞!

このたび、顧問 兼 中央検査部長の上田一之医師が「令和3年度国民健康保険関係功績者厚生労働大臣表彰」を受賞しました。



この表彰は、国民健康保険事業に対する功績が特に顕著であって、他の模範と認められる国民健康保険関係役員職員に対し行われているものです。上田顧問は、山口県国民健康保険診療報酬審査委員会の委員として、長年にわたり精勤されたことが称えられ表彰されました。

AST/ 抗菌薬適正使用支援チーム を立ち上げました!



ASTの役割

抗菌薬の適正使用に関する支援を行うことを目的に、医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師で構成されるASTが2021年11月から活動を開始しました。

- ① 感染症治療の早期モニタリングと主治医へのフィードバック
- ② 微生物検査・臨床検査の施行の適正化
- ③ 抗菌薬適正使用に係る評価
- ④ 抗菌薬適正使用の教育・啓発
- ⑤ 院内で使用可能な抗菌薬の見直し
- ⑥ 抗菌薬適正使用の推進に関する他の医療機関からの相談対応

やまぐち医療最前線 (tys テレビ山口)

| 放送日時 | 放送内容 | 出演 |
|-----------------------|----------------|-------------------|
| 3月 5 日(土) 18:55~19:00 | 消化管がんに対する内視鏡治療 | 消化器内科 岡本 健志 医師 |
| 3月 9 日(水) 16:00頃~ | | |



編集後記

今号では消化器内視鏡センターの開設についてご紹介しました。偶然にも時を同じくして、私にとって初めてとなる胃の内視鏡検査を先日、受けてきました。つらいつらいとは聞いていましたが、あれほどまでとは… 想像の域をはるかに超えていました。これを鎮静下で行えることのメリットは非常に大きいと身をもって実感することができました。早期発見・治療に繋げるため、定期的な検査を受けていただけるよう、今号の特集が内視鏡検査のハードルを少しでも下げるきっかけになればと思っています。(企画調整室H.A)

【基本理念】 県民の健康と生命を守るために満足度の高い医療を提供する



山口県立総合医療センター
Yamaguchi Prefectural Grand Medical Center

〒747-8511 山口県防府市大字大崎10077番地
TEL 0835-22-4411(代表) FAX 0835-38-2210
URL <https://www.ymgjp.jp/>